

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2016年7月25日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

みんな困っています！ 電話無料相談・各地から55人



格差と貧困が広がり、厚生労働省の「国民生活基礎調査」でも6割を超える世帯が「生活が苦しい」と答えています。7月19日、雇用・くらし・SOSネットワーク北海道が、「くらしのSOS なんでも電話無料相談」を行いました。

今回は、テレビでも紹介されたこともあり、北は利尻町、東は斜里町など、全道各地から55人か

ら相談が寄せられました。相談者は、20代から89歳まで幅広い年代から、相談内訳では、生活相談が20件と最も多く、医療や介護、法律や労働などに関する相談もありました。

「87歳の夫が入院していると、医療費がかかり生活できないので退院させたい」（84歳の妻）、「教育ローンも借りているが、収入が少なく、仕送りするのは大変」（大学生の子をもつ親）、「生活保護を利用できないか、障害年金を受けれないか」など生活困窮とその解決方法を尋ねる相談が多く寄せられました。

また、介護保険料、国保料が値上がりして、「生活できない」「高く払えない」など高すぎる保険料などの相談や、入院中の要介護5の母親の退院後の介護についての相談もありました。

労働相談も多く、「病気のために仕事を休んでいることを理由に退職勧告」「20代の息子が、病気を理由に会社から辞めるように言われた」「会社の役員に気に入った人のみ正規職員になり、不安をいうと激昂され恫喝されるパワハラ」「残業代ができない」など違法な状態に置かれている労働実態も明らかになりました。

当日は、弁護士や司法書士、医療ソーシャルワーカーなど専門家のべ19人が相談に応じました。

道内各地で、相談会など相談活動を広げましょう。

雇用・くらし・SOSネットワーク北海道のフリーダイヤル 0800-080-0058

札幌西区でも 生活困窮の相談相次ぐ SOS相談会

6月30日には、SOSネット西区第13回相談会が行われました。21件の相談が寄せられ、弁護士、司法書士、生活相談員、労働相談員、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャーなどの専門家が応じました。

相談内容は、生活福祉が14件と一番多く、住宅に投函されたチラシや街頭で配られたチラシを手にして相談にきた方も多く、生活困難が広がっていることが鮮明になりました。

50代の男性は、「母親の介護のために仕事を辞め親の年金で生活してきた。10年間を介護し2年前の親が他界、仕事を探しているが、持病のためなかなか見つからない。蓄えを取り崩してなんとか生活しているが今後が心配」と相談。持ち家や生命保険があるが、生活保護を利用できるかなどの相談も多数寄せられ、後日申請することになった方もいました。

また、「国保料が高くて支払えない」「国保料が昨年より1万円以上値上がりして生活が大変」など国保料についての相談も寄せられ、「独居で頼る人が近くにいない」という70代の男性には、ケアマネジャーが対応し、翌日、介護保険の申請手続きをしました。



9月4日（日） 労働と生活の総合相談会&学習会

場所：チカホ北3条交差点広場西 時間：10時～16時 主催：反貧困ネット北海道
学習会は、労働・保育・奨学金・障害・医療費・ホームレスなど（調整中です）。